

水まわりって、大切だから

Takara standard

タカラスタンダード株式会社
2025 年 3 月期 中間期決算説明会

証券コード

7981

開催日時	2024 年 11 月 6 日(水) 17:30~18:30
スピーカー	代表取締役社長 小森 大 取締役 専務執行役員 管理本部長 白坂 佳道 執行役員 管理本部経理部・財務部管掌 梅田 馨 執行役員 経営企画室長 横木 和人
方 法	オンライン開催

タカラスタンダード株式会社

2025年3月期 中間期

決算説明資料

2024年11月6日

証券コード
7981

水まわりって、大切だから
Takara standard

梅田 馨(以下、梅田)：

執行役員 管理本部経理部・財務部管掌の梅田です。私からは2025年3月期中間期の決算概要について、決算説明資料に沿ってご報告します。

1. 2025年3月期 中間期 決算概要	P. 2 ~ 13
2. 足元の事業環境と今後の見通し	P. 15 ~ 17
3. トピックス	P. 19 ~ 21

梅田：

目次の次の2ページ目、決算ハイライトに移ります。

2024年4-9月
決算概要

売上高は新築集合向けが牽引し、中間期の過去最高を更新。
営業利益は二桁の伸びとなり、増収増益。

【売上高】	1,159億円 前期比 +1.1%	リフォーム向けは、価格改定に伴う駆け込み需要があった前期と比べ減少したものの、新築集合向けが各製品部門とも好調に推移したことにより増収となった。
【営業利益】	59億円 前期比 +12.3%	在庫削減などの合理化・コストダウンを実施したことや価格改定により増益となった。
【中間純利益】	38億円 前期比 △12.3%	前年度に投資有価証券の売却益 11億円を計上していたため、当期は減益となった。

梅田：

表題に記載の通り、売上高は中間期で過去最高を更新。営業利益は二桁の伸びとなりました。

売上高は 1,159 億円、前期比+1.1%。リフォーム向けは昨年に価格改定の駆け込み需要があった影響で前年比はダウンとなりましたが、新築では特に首都圏を中心にマンション物件が好調に推移したことで増収となっています。

営業利益は 59 億円、前期比+12.3%。在庫削減などの合理化/コストダウンの効果など、昨年実施の価格改定の効果により、二桁の増益となっています。

当期純利益は 38 億円、前期比△12.3%。昨年度は投資有価証券の売却益を 11 億円計上したため、中間期は減益となっています。

経営成績

Takara standard

売上高・営業利益は増収増益。

上期の業績予想に対し、売上高はほぼ計画通りに進捗したものの、
営業利益は比較的利益率の高いリフォーム市場向けが伸び悩んだため未達となった。

(単位:億円)

	2023年4-9月		2024年4-9月				2024年4-9月 業績予想	
	金額	売上比	金額	売上比	増減	増減率	金額	達成率
売上高	1,146	100.0%	1,159	100.0%	+12	+1.1%	1,166	99.4%
売上総利益	384	33.5%	396	34.2%	+12	+3.2%	—	—
販売費及び 一般管理費	331	28.9%	336	29.1%	+5	+1.7%	—	—
営業利益	53	4.6%	59	5.1%	+6	+12.3%	64	93.1%
経常利益	54	4.8%	61	5.3%	+6	+11.6%	65	94.4%
親会社株主に帰属する 中間純利益	44	3.9%	38	3.3%	△5	△12.3%	42	92.5%

3

梅田：

次に3ページ、経営成績です。

繰り返しの部分もありますが、全社では増収増益、売上高は1,159億円で前期よりも12億円の増加。
リフォーム向けは昨年に価格改定による駆け込み需要があり前年比ではダウン、新築では首都圏中心
にマンション物件好調で、全体では増収となっています。

その下、売上総利益396億円、前期比+12億円。合理化/コストダウンの効果、また昨年実施の価格改
定の効果で増益となっています。

その下、販売費及び一般管理費は336億円。主に人財投資の増加で前期より5億円の増加となってい
ます。

その結果、営業利益は59億円、前期より6億円増加、前期比+12.3%です。

経常利益は61億円で、前期から6億円増加。

親会社株主に帰属する中間純利益は38億円、前期より5億円減少。減少要因のうち約8億円は昨年
度の有価証券の売却益による影響です。

上期の業績予想に対する達成率は右側に記載の通りです。

経営成績(四半期別対比)

Takara standard

(単位:億円)

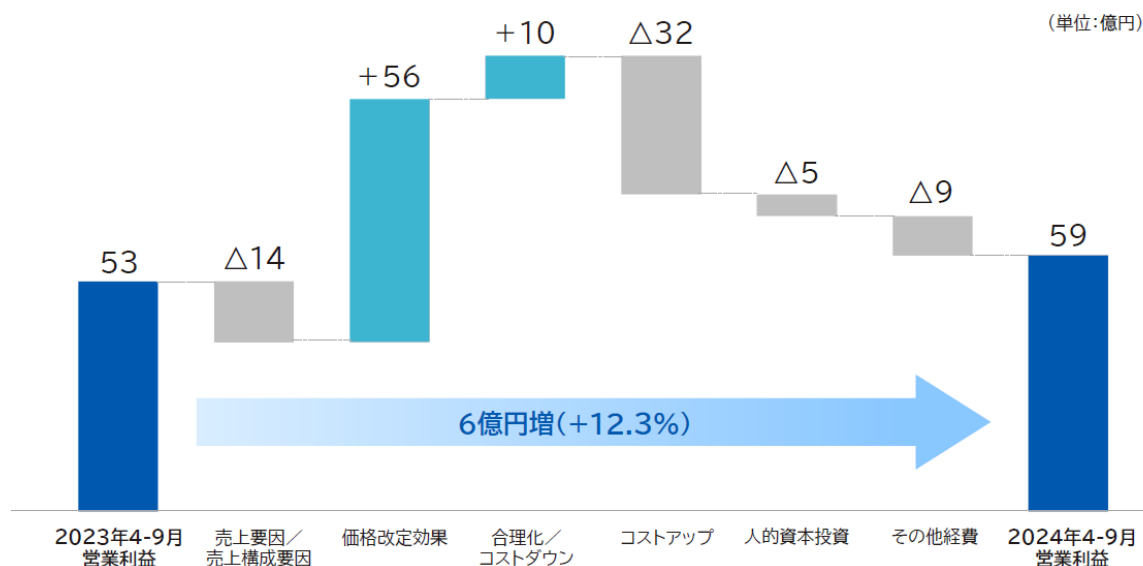
	2023年				2024年							
	第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第1四半期 (4-6月)				第2四半期 (7-9月)			
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	増減	増減率	金額	売上比	増減	増減率
売上高	572	100.0%	574	100.0%	573	100.0%	+0	+0.1%	586	100.0%	+11	+2.1%
売上総利益	190	33.3%	193	33.7%	197	34.5%	+6	+3.6%	198	33.9%	+5	+2.7%
販売費及び 一般管理費	164	28.7%	167	29.1%	166	29.1%	+2	+1.7%	170	29.0%	+2	+1.7%
営業利益	26	4.7%	26	4.6%	30	5.4%	+4	+15.4%	28	4.9%	+2	+9.0%
経常利益	28	5.0%	26	4.6%	32	5.7%	+4	+14.2%	28	4.9%	+2	+8.8%
親会社株主に 帰属する 中間純利益	19	3.4%	25	4.4%	20	3.6%	+1	+7.7%	18	3.1%	△6	△27.7%

梅田：
1 ページ飛ばします。

営業利益の増減要因

Takara standard

リフォーム売上の減少や原材料仕入などのコストアップによる減益要因があったものの、2023年度実施の価格改定効果が当期にも寄与し、また新築集合住宅向け売上の増加および在庫圧縮など合理化・コストダウンを実施したことにより、利益が増加した。



5

梅田：

5 ページ目、営業利益の増減要因を要因別に記載しています。

まず、当期の営業利益は前期より 6 億円増加し、59 億円となりました。

その増減として、まず売上要因として△14 億円。主にリフォーム売上の減少による要因となります。昨年度の値上げによる駆け込み需要に対する減少となっています。

次に価格改定による影響ですが、昨年度に実施した価格改定の影響として+56 億円。

その次、在庫削減などによる合理化/コストダウンで+10 億円。

他方、マイナス要因としまして、資材やエネルギー価格、仕入商品の値上げなどコストアップの影響 32 億円が利益減少要因となっています。

その次に、人的資本投資関連が 5 億円のマイナス。

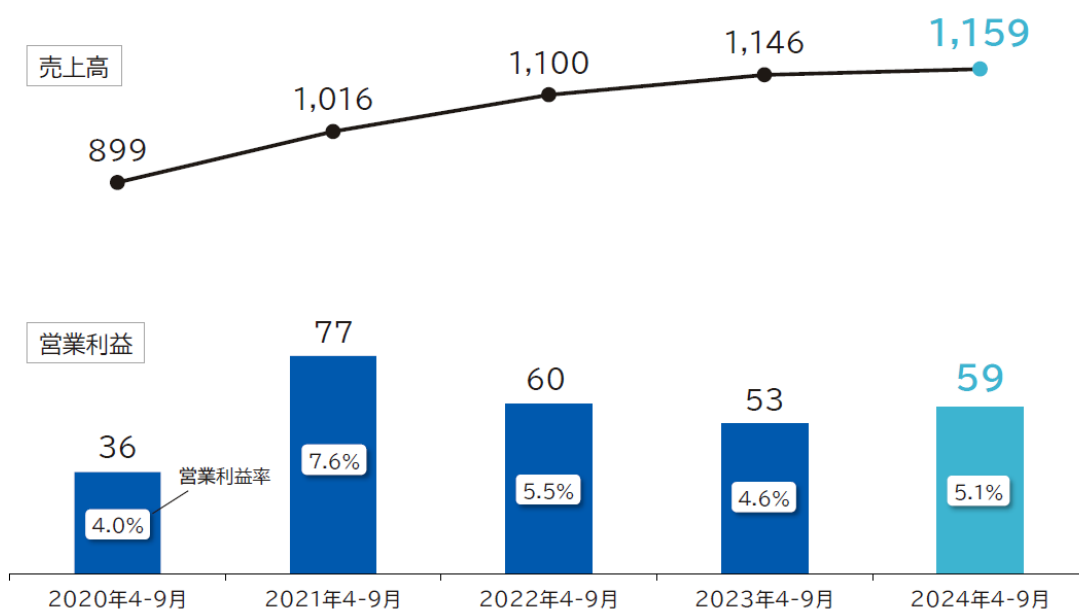
その他、生産設備増強に伴う減価償却費の増加などによる 9 億円の減少。

差し引き 6 億円増加の 59 億円となりました。

売上高 及び 営業利益の推移

Takara standard

(単位:億円)



※2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、2020年4-9月は遡って適用した数値となっております。

梅田：

その次6ページ、売上と営業利益率の推移です。

記載の通りとなりますので、後ほどご確認お願いします。

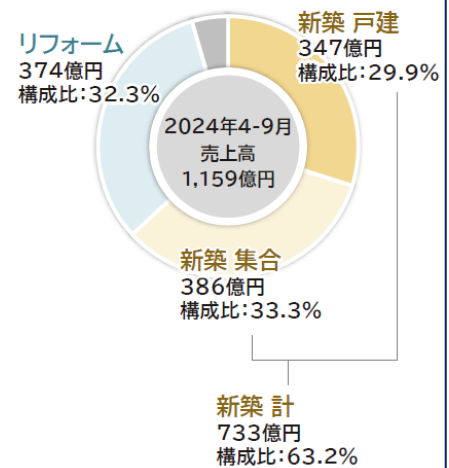
市場別の売上高

Takara standard

リフォーム市場向けは前期の価格改定に伴う駆け込み需要の反動により前期を下回ったものの、新築市場向けが主に集合住宅向けで好調に推移したことにより、合計でも増収となった。

(単位:億円)

		2023年4-9月		2024年4-9月			
		金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
新築	戸建	343	29.9%	347	29.9%	+3	+1.0%
	集合	344	30.0%	386	33.3%	+42	+12.3%
	計	687	59.9%	733	63.2%	+45	+6.6%
リフォーム		406	35.5%	374	32.3%	△32	△8.0%
その他共 計		1,146	100.0%	1,159	100.0%	+12	+1.1%



7

梅田：

次、7 ページ目は市場別の動向となっています。

上から、新築戸建向け 347 億円、増減率+1.0%。

新築戸建市場縮小のなか、近年取り組んできた戸建市場に特化した営業組織の再編による営業力強化や優良ビルダーの開拓、シェアアップなど堅調に推移しています。

新築集合向けは 386 億円で増減率+12.3%。大都市圏から地方まで物件の受注が好調に推移し、また売上構成比の低い浴室の販売に関しては引き続き注力し、今期も二桁の伸びで推移しています。あわせて価格改定効果も寄与し、大幅増加となっています。

リフォーム市場向けは 374 億円で増減率△8.0%。先ほどからお伝えしているように、昨年度実施の価格改定の駆け込み需要により今期は減少している状況となっています。

市場別の売上高(四半期別対比)

Takara standard

(単位:億円)

		2023年				2024年							
		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第1四半期 (4-6月)				第2四半期 (7-9月)			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率	金額	構成比	増減	増減率
新築	戸建	174	30.6%	168	29.3%	171	29.9%	△4	△2.3%	176	30.0%	+7	+4.4%
	集合	157	27.5%	186	32.5%	182	31.8%	+25	+15.9%	203	34.8%	+17	+9.2%
	計	332	58.0%	355	61.8%	353	61.6%	+21	+6.3%	379	64.8%	+24	+6.9%
リフォーム		214	37.4%	192	33.6%	194	33.9%	△19	△9.2%	179	30.7%	△13	△6.7%
その他共 計		572	100.0%	574	100.0%	573	100.0%	+0	+0.1%	586	100.0%	+11	+2.1%

梅田：

1 ページ飛ばします。

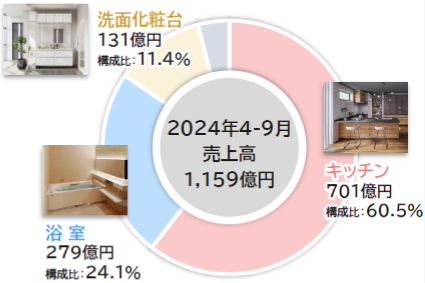
製品部門別の売上高

Takara standard

各製品部門とも、リフォーム向けは前期を下回ったものの、キッチン・洗面化粧台は、新築市場でシェアの高い集合住宅向けが好調に推移したことにより増収となった。

(単位:億円)

	2023年4-9月		2024年4-9月			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
キッチン	680	59.3%	701	60.5%	+21	+3.1%
浴室	285	24.9%	279	24.1%	△5	△2.0%
洗面化粧台	129	11.3%	131	11.4%	+2	+1.6%
その他共 計	1,146	100.0%	1,159	100.0%	+12	+1.1%
【内数】						
パネル関連売上	34	3.0%	33	2.9%	△1	△3.5%
海外事業売上	5	0.5%	5	0.5%	△0	△2.4%



梅田：

9 ページです。

キッチン・浴室・洗面化粧台、当社の主要三部門の販売状況です。

キッチンの売上は 701 億円、前期より 21 億円の増加、増減率は 3.1%のプラス。新築集合向けの売上増加に伴う木製システムキッチンが主に増加しています。

浴室の売上は 279 億円、前期より 5 億円の減少、増減率は△2.0%。特にリフォーム市場での売上構成比が高い浴室は減少となっています。

洗面化粧台の売上は 131 億円、前期より 2 億円の増加、増減率は+1.6%。

新築市場の好調、リフォーム市場のダウンの影響を受けた製品別の増減結果となっています。

製品部門別の売上高(四半期別対比)

Takara standard

(単位:億円)

	2023年				2024年							
	第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第1四半期 (4-6月)				第2四半期 (7-9月)			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率	金額	構成比	増減	増減率
キッチン	340	59.6%	339	59.1%	342	59.7%	+1	+0.4%	359	61.3%	+19	+5.8%
浴室	143	25.0%	142	24.7%	142	24.9%	△0	△0.3%	136	23.3%	△5	△3.7%
洗面化粧台	62	11.0%	67	11.7%	64	11.3%	+1	+3.1%	67	11.5%	+0	+0.3%
その他共 計	572	100.0%	574	100.0%	573	100.0%	+0	+0.1%	586	100.0%	+11	+2.1%
【内数】												
パネル関連売上	17	3.1%	17	3.0%	16	2.9%	△1	△7.3%	17	2.9%	+0	+0.3%
海外事業売上	3	0.6%	2	0.5%	2	0.5%	△0	△17.4%	3	0.5%	+0	+15.9%

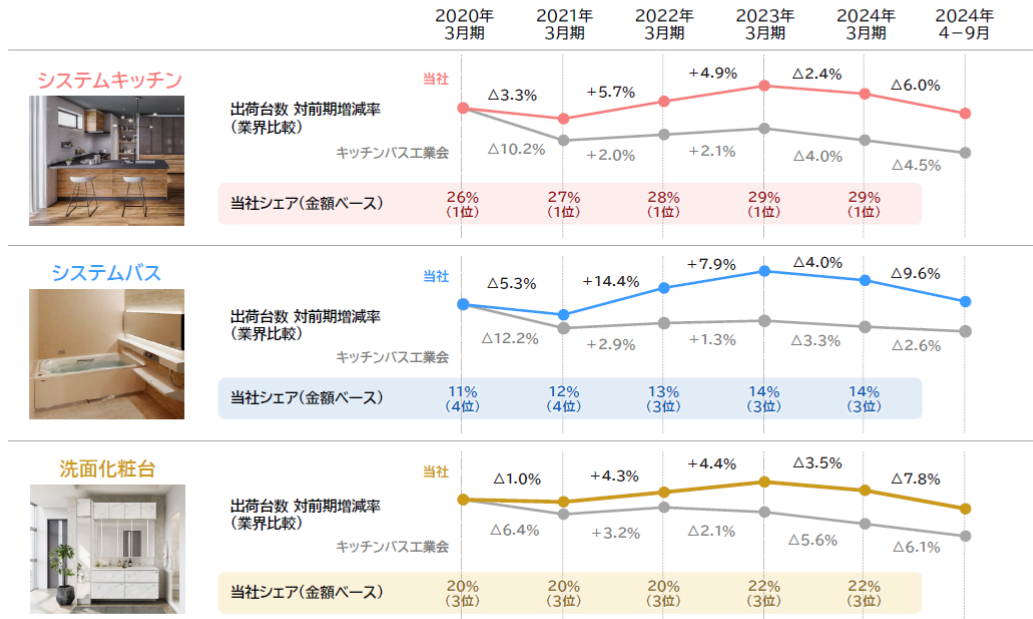
梅田：

1 ページ飛ばします。

出荷台数増減率 及び 当社シェアの推移

Takara standard

出荷台数の対前期増減率は業界(キッチン・バス工業会)に対し、足元は前期の駆け込み需要の影響によりやや低調に推移。



※キッチン・バス工業会の台数増減率は、システムキッチン合計、システムバス合計、洗面化粧台合計の対前期増減率を記載
※業界シェアは当社調べ

11

梅田：

11 ページ目、業界との出荷台数の動向比較です。

市況の影響もありますが、前期の価格改定の駆け込み需要により、出荷台数は今回はやや低調に推移しています。

各製品別の業界比較は記載の通りとなっています。

貸借対照表

Takara standard

2024年9月末の総資産は 2,717億円、前期末比 30億円の増加。

(単位:億円)

		2024年 3月末	2024年 9月末	増減	主な内容
資産	流動資産	1,549	1,570	+ 21	現金及び預金 +21 売上債権 +3 棚卸資産 △14
	固定資産	1,137	1,146	+ 9	有形固定資産 +12
資産合計		2,686	2,717	+ 30	
負債	流動負債	612	620	+ 7	仕入債務 +24 未払法人税等 △9
	固定負債	200	201	+ 1	
負債合計		812	821	+ 8	
純資産		1,873	1,896	+ 22	中間純利益 +38 剰余金の配当 △18 その他包括利益累計額 +2
負債純資産合計		2,686	2,717	+ 30	

梅田：

次に 12 ページの貸借対照表です。

2024 年 3 月期末に対し、資産合計 30 億円増加の 2,717 億円。

各科目の増減は記載の通りです。

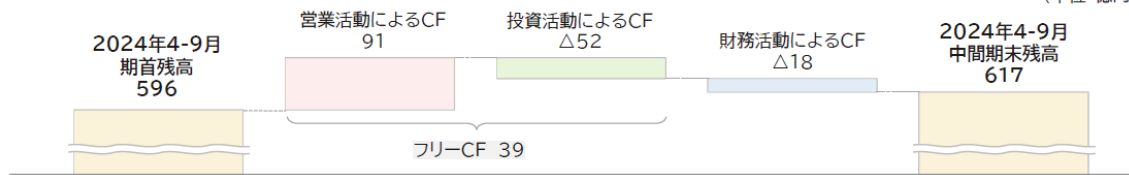
後ほどご確認願います。

キャッシュ・フローの状況

Takara standard

現金及び現金同等物の中間期末残高は、期首596億円から21億円増加し、617億円となった。

(単位:億円)



	2023年 4-9月	2024年 4-9月	主な内容
現金及び現金同等物の期首残高	803	596	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△114	91	税金等調整前中間純利益 56 棚卸資産の減少 14 仕入債務の増加 30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21	△52	有形固定資産の取得による支出 △53
フリーキャッシュ・フロー	△136	39	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△46	△18	配当金の支払額 △18
現金及び現金同等物の中間期末残高	620	617	

13

梅田：

最後に 13 ページ、キャッシュフローの状況です。

現金及び現金同等物は期首に比べ 21 億円増加、617 億円となりました。主な内容は下段に記載の通りです。

営業活動による資金の増加は 91 億円。

投資活動による資金の減少は 52 億円、主に有形固定資産の取得による支出です。

財務活動による資金は配当金の支払いにより 18 億円の減少となっています。

中間期の決算に関しては、以上の通りです。

1. 2025年3月期 中間期 決算概要 P. 2 ~ 13

2. 足元の事業環境と今後の見通し P. 15 ~ 17

3. トピックス P. 19 ~ 21

小森 大(以下、小森)：

「足元の事業環境と今後の見通し」については、私よりご説明します。

国内経済

個人消費に持ち直しの動きがみられるとともに、堅調な設備投資やインバウンド需要の増加などを背景に緩やかな回復基調で推移。一方、地政学リスクの長期化や物価高の継続、金利上昇リスクなど、先行きは不透明な状況。

原材料価格については、足元では落ち着いているものの、引き続き高止まりしている。

住宅市場

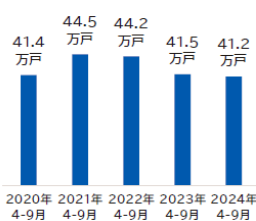
新築市場は戸建、集合ともに弱含みの傾向。また、リフォーム市場も前年を下回る水準で推移。

先行きについて、新築市場では住宅価格の高騰や住宅ローン金利の上昇が懸念材料。

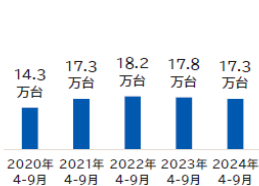
リフォーム市場も同様の懸念がある一方、中古住宅や既存住宅のリノベーション需要は今後も拡大の見込み。

業界の動向

新設住宅着工戸数(国土交通省)



リフォーム市場でのキッチン出荷台数(キッチン・バス工業会)

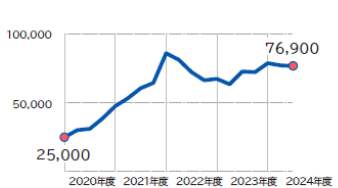


主な資材の市況

冷延鋼板(円/kg)



ナフサ(円/kl)



小森：

まず、足元の事業環境について説明します。

国内経済に関しては、全般的に緩やかな回復基調ということではありますが、先行きに関しては海外情勢や物価高など、様々なリスクがあると認識しています。

原材料価格は、当社の事業に影響が大きい冷延鋼板やナフサの値上げは足元落ち着いているものの、引き続き高止まりしています。

続いて、我々の営業の主体となる住宅市場に関して、まず新築市場については、人口減に起因する着工戸数の減少は引き続き変わらない傾向です。同市場の先行きに関しては、住宅価格の高騰や住宅ローン金利の上昇が主なリスク要因と認識しています。

当社の注力市場であるリフォーム市場に関しては、足元では若干厳しい状況で推移しています。ただ、豊富な住宅ストックを背景とした、リフォームそしてリノベーション需要は今後拡大する見込みですので、当社にとって魅力的な市場ということには変わりはありません。

2025年3月期 業績予想（期初公表内容から変更なし）

Takara standard

新築市場向けの好調を維持しつつ、リフォーム市場向けの「商品力の強化」、「提案力の取組み強化」を更に推進。また、生産性の向上、合理化による収益力の改善をより一層図り、業績予想の達成を目指す。

（単位：億円）

増収増益を計画

売上高:1.9%増
営業利益:16.7%増

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減	増減率
売上高	2,347	2,391	+43	+1.9%
営業利益	124	145	+20	+16.7%
営業利益率	5.3%	6.1%	+0.8P	—
経常利益	127	147	+19	+14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	95	97	+1	+2.1%

下期の主な取組施策

【リフォーム】 販売台数の回復に向けた各施策を推進。
・ボリュームゾーン商品の仕様強化：システムキッチン「トレーシア」、システムバス「グランスパ」（2024年8月）
・ユーザーの予算に合わせた最適な提案の推進による受注獲得
・リフォーム後の快適な暮らしがイメージできるように、ショールーム展示内容の見直しを行い提案力を強化

【新築戸建】 更なるシェアの獲得や機能商品の拡販に加え、価格改定効果も継続。

【新築集合】 価格改定効果に加え、高級物件でのキッチン販売推進および近年注力している浴室の拡販。

上記に加え、在庫圧縮による物流費削減などの合理化や、コストダウンなどに引き続き取り組み、収益力の改善を図る。

16

小森：

このような状況下で、先ほどご説明の通り、上期業績は内容として多少想定と異なる部分もありましたが、通期の業績予想は期初から変更せず、売上高は 2,391 億円 前期比 1.9%増、営業利益は 145 億円 前期比 16.7%増 営業利益率としては 6.1%、当期純利益は 97 億円 前期比 2.1%増を予定しています。

上期が予想を若干下回っている以上、下期にそれを取り返す業績を上げる必要があります。そのためには、やはり上期に伸び悩んだリフォームの改善が絶対条件となります。販売台数をいかに回復させるかが鍵となり、様々な施策に取り組んでいます。

商品面では、この 8 月に、キッチンおよび浴室のボリュームゾーン商品の仕様を強化しています。また、物価高が継続するなかで、ユーザーの予算に合わせた最適な提案ということを我々推進しています。加えて、業界最多を誇るショールームでは、リフォーム後に変わった暮らしがイメージできるような提案内容へ見直しを実施しています。こうした施策を徹底することでリフォームの早期回復を図ります。

新築戸建市場は、引き続きシェア拡大に取り組むとともに、価格改定効果も一部残るため、上期同様に前期並みの着地を目指します。上期好調だった新築集合市場においては、価格改定効果が継続するとともに、現状はそれほど売上規模が大きい、いわゆる高級物件への販売強化や、それと合わせて近年注力している浴室の拡販を通して、下期も前期を上回る着地を目指します。

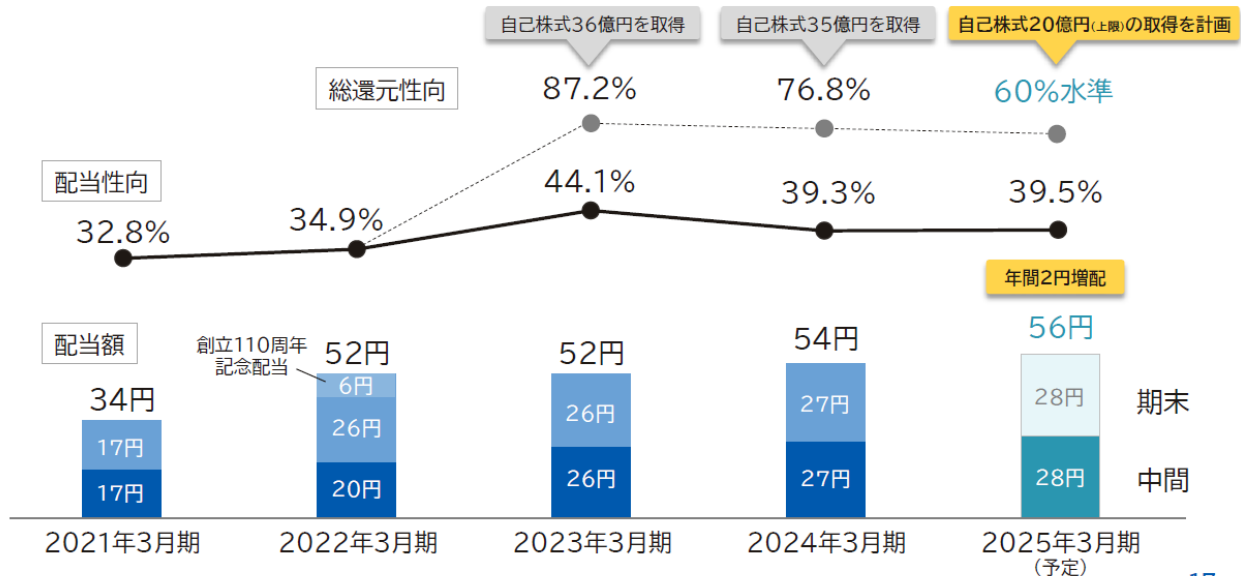
これらに加え、在庫削減による物流費の圧縮などの合理化や各種コストダウン、これによって収益力の改善を図ります。こうした取り組みにより業績予想を達成したいと考えています。

株主還元の状況（期初公表内容から変更なし）

Takara standard

資本効率の向上及び株主還元の充実を目的に、
2025年3月期は「増配」と「自己株式取得」を予定

2025年3月期の配当は年間56円（2円増配）を予定。また自己株式取得20億円（上限）も実施予定。



17

小森：

続いて、株主還元についても、期初の公表内容から変更はありません。

配当金は、中間・期末それぞれ28円、年間56円となりまして、前期から2円の増配で、三期連続増配となります。

自己株買いは上限20億円を計画しており、これは下期に実行します。

これらにより総還元性向は60%水準を予定しています。

当社では、今後も持続可能な成長基盤の構築に向けて、成長投資や経営基盤強化に資本を積極的に配分するとともに、財務の健全性を維持しながら、株主還元の充実を図ってまいります。

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 2025年3月期 中間期 決算概要 | P. 2 ~ 13 |
| 2. 足元の事業環境と今後の見通し | P. 15 ~ 17 |
| 3. トピックス | P. 19 ~ 21 |

このスライド以降は今期のトピックスとなるため、お時間あるときにご確認をいただければと思います。

以上で私の説明とさせていただきます。ありがとうございました。

トピックス ①

Takara standard

世界唯一のホーローシステムキッチンがインドネシア初上陸 日系キッチンブランド“グローバルトップリーダー”への一歩

インドネシア最大の建材・建築・インテリアの展示会である
「Indo Build Tech Expo(インドビルドテックエキスポ)」に初出展。



インドネシアは人口増加と経済成長に伴い、富裕層が増加し、高級不動産やハイエンドキッチンの需要が高まっています。これに応じて、タカラスタンダードは初めてインドネシアの展示会に出展し、ホーローシステムキッチンと内装材を紹介しました。

ホーローキッチンは清掃性、耐火性、耐久性に優れ、特にインドネシアの気候や調理習慣に適しています。当社は現在、台湾、中国、ベトナムで約11億円を売り上げており、2030年度にはインドとインドネシアを含む5エリアで売上100億円を目指しています。

町田デザイン&建築専門学校との産学連携授業開始

今後さらに深刻化していくリフォーム業界の人手不足を見越して、当社が加盟している一般社団法人全国リフォーム合同会議が町田デザイン&建築専門学校と連携し、リフォーム人材を育成する授業を2024年9月よりスタート。



総務省の調査によると、大工職は1985年の約80万人から2020年には約30万人に減少し、特に若手が減少しています。一方、リフォーム市場は成長が期待され、職人の需要が高まっていますが、高校卒業後にリフォームを学べる環境はほとんどありません。

そこで、一般社団法人全国リフォーム合同会議と町田デザイン&建築専門学校が連携し、リフォーム業界を目指す学生向けのカリキュラムを提供します。当社は研修施設でのシステムキッチン、システムバスの施工実習の授業を担当します。

リフォーム会社や住宅設備機器メーカーが座学や施工実習を担当し、専門士の学位を取得する過程でリフォーム技術を学びます。エンジニア養成も目指し、リフォーム業界全体の発展に貢献することを目指しています。

19

トピックス ②

Takara standard

上期は新設・リニューアル・移転 3カ所を実施

全国47都道府県に約160カ所。お客様が商品を見て、触れて、納得いただける地域密着型のショールームを展開。



大阪府 **新設**
南大阪ショールーム
(2024年7月)

埼玉県 **リニューアル**
さいたまショールーム
(2024年9月)

福井県 **移転**
福井ショールーム
(2024年9月)

WEB活用によりショールームへの来場を促進

360°見渡せる
バーチャルショールーム



ショールーム
展示品情報



WEB予約システム



「2025年日本国際博覧会」の施設に ホーロー壁装材「エマウォール」が採用

「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」では今後の活躍が期待される若手建築家が「ポップアップステージ」「トイレ」などの施設の設計を担当。当社は各施設にホーロー壁装材「エマウォール」を提供し、サプライヤーとして協賛します。

■ ポップアップステージ(西) 設計:株式会社三井嶺建築設計事務所



ステージの左右に配置される楽屋と倉庫棟の外装建材として採用

■ トイレ8 設計:合同会社斎藤信吾建築設計事務所



トイレの内装としてホーロー内装材「エマウォール インテリアタイプ」を採用

20

トレンドの北欧インテリアと親和性の高い 「ムーミンとのコラボレーション」

キッチンパネルやホーロー内装材へ展開。年齢層が幅広く、ファンが多いキャラクターを活用し、ブランドイメージや企業認知を向上させ、新規ユーザーの獲得を目指します。

MOOMIN × Takara standard

©Moomin Characters™



キャラクターを用いた「キッチンパネル」の取り扱いが業界初



大好きなキャラクターがキズつかない、剥がれないというホーローの特徴を通じて、「ホーロー」の独自性・強みをより一層訴求。

サステナブルな素材ホーローによる理想の暮らしを体験 高島屋大阪店「TSUNAGU MARKET」に初出展

高島屋大阪店のサステナブルな暮らしを提案する「TSUNAGU ACTION WEEK」の趣旨に賛同し、大阪のローカルな魅力や日本の文化、個性豊かなアートなどが展示される「TSUNAGU MARKET」に出展いたしました。



「TSUNAGU MARKET」のタカラスタンダードブース

タカラスタンダードは「アートと暮らす」エリアに出展し、独自のホーロー内装材「エマウォール インテリアタイプ」を展示しました。

この展示では、高島屋大阪店で販売されている家具を一部活用し、リビングや子ども部屋、玄関など、さまざまな暮らしのシーンをイメージ。

独自のインクジェット印刷技術を用いた高いデザイン性を持ちながらも、サステナブルな素材である「ホーロー」を通じて、新しいリフォームの形を体感する空間を制作。

※「TSUNAGU MARKET」の展示は現在は終了しています。

< IRお問い合わせ先 >

タカラスタンダード株式会社

管理本部 財務部

TEL 06 - 6962 - 1502

E-mail ir@takara-standard.co.jp

水まわりって、大切だから

Takara standard